

2学期が始まり、子供たちは、色々な表情で登校してきました。夏休みで、エネルギーをたくさん蓄えた子、少ししんどそうにしている子・・・様々です。子供たちの様子をよく観察し、子供の気持ちに寄り添いながら、2学期も取り組んでいきたいですね。

今回は、本校の微笑ましい取組の中での、工夫・合理的配慮をご紹介します。知的障害小学部4年生は、特別活動の取組で『わくわくタイム』という時間を設け、学年のメンバーで自分たちがしたいことを話し合います。教師は、子供たちの意見を受けて、準備をします。そして、翌週取組が行われます。



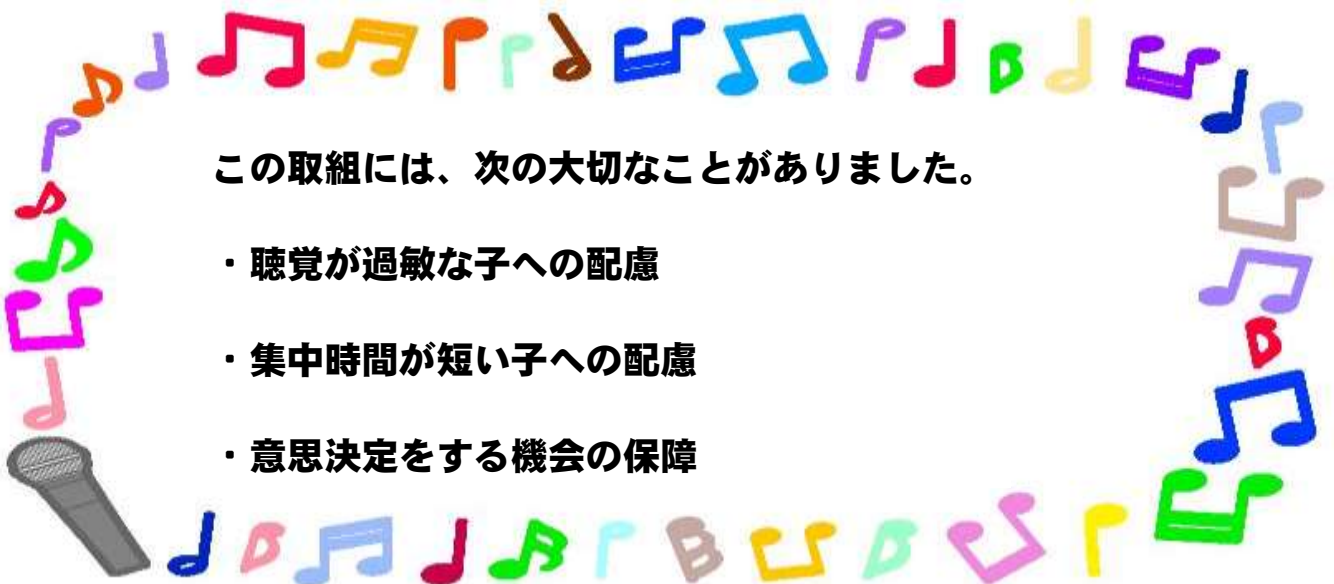
9月はじめ4年生は、近くの『向島公園へ歩行』と話し合いました。さらに、雨の時は、『カラオケ』と決めました。カラオケは、余暇活動にもつながる取組です。でもカラオケが好きでない子もいます。その子達の対応を教師は考えました。歌いたくない時には・・・『映像を見ながら音楽を聴くだけでもよい』と提案しようと考えていました。

さて、本番、天候により、カラオケをすることになりました。自分で好きな歌を決めます。また、歌うか歌わないか聞かれ、3人が「歌いたくない」とアピール。その時、教師は「前（大型テレビの前）で聴く？」「自分の席で聴く？」と選択肢を提示します。それぞれ、子供たちは選んだ場所で、好きな歌を見たり聴いたりしました。

さらに途中、聴覚が少し過敏で、45分間は取り組むことが難しいA君が、表情を変え始めました。その時には教師が「どうしたの？」と尋ね、言葉で伝えられない彼に対し「うるさいの？」と問いかけ、泣き始めた彼を「外で聴く？」「ここに居られる？」と手を取ると、教師と一緒に教室の外へ。廊下では、笑顔に戻ったA君がいました。

この取組には、次の大切なことがありました。

- ・聴覚が過敏な子への配慮
- ・集中時間が短い子への配慮
- ・意思決定をする機会の保障



全員がいやな思いをすることなく、楽しむことができた『わくわくタイム』でした。
自分の好きな歌を選び、気持ちよく歌いました♪



少ししんどいときもあります。その時には、
教師のちょっとした配慮が有効！

音が大きくて
うるさいなあ・・・

廊下に出たら、音が
小さくなって安心！



歌うのは、いやだなあ。
でも・・・
ちょっとだけ前に出て、
好きな歌を聴こう！